

第2回 魚津駅・新魚津駅周辺まちづくり協議会 議事録 (概要版)

日時：2017年12月4日（月）午後1時15分～

場所：魚津市役所第一会議室

2. 報告事項

(1) 駅利用者アンケート等の結果

(質問なし)

(2) 専門部会での協議事項

(質問なし)

(3) 立地適正化計画

(質問なし)

3. まちづくりの事例紹介

会長説明

(質疑応答)

委員等

人口規模によって賑わう空間の大きさも変わると思われるが、人口規模が魚津市に近いザンクトポールテンの商業空間規模についてお伺いしたい。

会長

写真の商店街が、4～5程度ある。商店街の規模自体は大きくないが、駅前にコンパクトにまとまり回遊できるようになっており、外側には駐車場や自動車走行空間として違う空間が存在している。最初に施策を行ったところに人が集まる傾向にあるので、できるだけ早くに取り組めれば良い。

委員等

写真の人達は観光客なのか地元住民なのか、また郊外に大きなショッピングセンターがあるのかどうかお聞きしたい。

会長

外から来た人もいますが、著名な観光地でもないのに、人口400人のまちでこれだけの歩行者のほとんどは観光客ではなく市民です。観光客は目的があるから来るのではなく、楽しそうな良いまちだから、綺麗なまちだから来る程度なので、多くは無いがそれなりに来る。

オーストリアなどヨーロッパの大型ショッピングセンターの規模は日本と比べて非常に大きく、毎日の生活用に1週間分をまとめて買う生活形態が定着している。まちなかを歩く人達は日用品ではなく、時間があるからとりあえずまちに行ってみようという人達で、

お菓子屋さん、アクセサリのお店など昔ながらの有名なお店で誕生日プレゼントやクリスマスプレゼントを買う時等にまちをぶらぶら歩きながら良いものを探そうという感じ。ショッピングセンターもまちの中も同じように賑わっている。

委員等

公共交通について、まちなか交通とまちなかにアクセスする交通、人口 400 人のラッテンベルグは、まちの規模も小さく、歩行だけで十分な気もしますが、写真ではバスや駅の写真もあり、公共交通の充実がどの様な役割を果たしているのか知りたい。また、ここでの駐車場は無料駐車場なのか、誰が管理運営しているのか等教えて欲しい。

会長

公共交通について、今日紹介したまちには鉄道駅があり、ザンクトポールテンの正面にはオーストリア連邦鉄道の駅がある。他にも歩行者空間の直近に駅があるところは多く、5分程歩いた距離にある連邦鉄道の別駅からはダイヤ調整したバスアクセスも行われ、鉄道とバスが連携してまちなかへのアクセスを確保している。鉄道の新設は難しいので、ダイヤや運賃等調整しながら既設鉄道を活かしたバスとの一体的整備等、連携しながら上手くネットワークが形成されている。

駐車場政策は非常に重要な都市政策で、多くの場合は中心地に行くほど料金が高く、郊外に行くほど料金が安く設定される。市場任せでも同様の形態になると思われる。郊外で車を止めて電車に乗るパーク&ライド駐車場は安い料金設定等でバランスが取れる。交通局系の部署で駐車場とバスを同時に経営しているところでは、同一財源で駐車料金収入をバスレンタルに使う等もしているので、地域に一番最適な公共交通整備、公共交通も含めた駐車場整備、政策などが展開されていく。

委員等

夜間も賑わいがあるのか教えて欲しい。

会長

夜間について、18時か19時くらいまでに商店街はほぼ閉店する。一方で、飲み屋街へは自動車送迎によるアクセスも多いが、夜もかなり遅くまで電車やナイトバスと呼ばれるバスを走らせている。便数は減るが確実にバスはあるので、まちに飲みに来る足も確保されている。

委員等

歴史的にまちの成り立ちから、ヨーロッパでは、都市と田舎がはっきり分かれていて、もともと高層住宅など密集地区があるのに対し、日本は低層な住宅が散漫に広がっている。ヨーロッパで日本と同じような状況から政策転換を図ってまちづくりを進めた事例や、国内の良い事例があれば教えて欲しい。

会長

まちの形態を大きく変えるのは大変難しいので、立地適正化計画などが日本でも取り組み始められている。古くから用途地域や市街化区域等の線引き都市計画手法は海外と同じ

ことをしてきたが、向こうの厳格政策に対して日本は甘い部分があり、非常に広い範囲の市街化区域設定や、ここにしか建てられないといった政策はあまり行ってこなかった。国の法律体系、多くの自治体が同じようなまちづくりを進め、地方で郊外拡散を防ぐ政策は実施できず、どこも同じような問題を抱えている。富山市のコンパクトなまちづくりは全国でも成功事例だが、まだまだこれから。’70年代以降に郊外化が進んだ今の都市形態を数年間で元に戻そうとしてもなかなか難しいが、高齢化社会を見据えて郊外の一軒家では暮らしにくいので、一旦まち中や駅の近く、郊外でも駅やバス停の近くに暮らすようなまちづくりが全国的に取り組み始められている。人口1万人以下の小さなまちでも同様の考え方で都市づくりが進められている海外事例や、日本でも小京都等と呼ばれる観光客が集まる場所では、歩行者空間とその裏の駐車場整備、鉄道やバスが連携した交通政策が取り組まれているので、市民だけでなく観光客の需要も含めて考えていく事も大切。

4. 協議事項

会長

今の話は参考までに、こうするべきではないということ踏まえ、魚津のことについて現地に即して皆さまのご意見をお伺いしていければと思います。

事務局説明

会長

漠然とお伺いしても話にくいので、例えば資料4の中ではキーワードの例をたくさん挙げています。これら以外に何か別の提案や、この視点とは違うようなものなどありますか。大体のものがキーワードとして挙げられていると思いますが、同じ言葉でも色々なイメージ、異なる要点等もあると思います。キーワードやキャッチフレーズなど、皆さまのご意見を伺いたいと思います。

委員等

キーワード「世代をつなぐ」、「シニア世代の人たちのまちなか移住」、「駅を中心としたにぎわい」

もともと駅周辺はコンパクトで、シニア世代にはとても生活しやすい。シニア世代に駅周辺に住んでもらい、更に駅に若者たちが集うような魅力があれば、カフェやランチタイムなどの飲食店など新しい市場が生まれ、若い人とシニア世代の交流もできる。実は駅前はずごく便利で、富山まであいの風で行けるし、新幹線もあいの風で富山まで行けば、かがやきに乗れるので車が無くても過ごしやすい。余裕のあるシニア世代の新しいライフスタイルを確立させる方向性が、駅を中心にしたまちづくりの実現に繋がる。まちなかに住み、世代間交流がしやすい環境づくりが必要。

キャッチフレーズ「駅を中心に人をつなぐまちづくり」

次に、観光や交流人口を増やすことを考え、駅を降りた時の山の美しさ、振り向けば富山湾の見える絶景ポイントを思い浮かべた。8号線から駅までの中央分離帯を川にして、

北アルプスの山の雪を見ながら伏流水が海に流れてくる景色が、駅を降りた瞬間に見える
と、魚津の水循環が想像できる素敵なまちを想像してもらえ。隈研吾さんに手掛けても
らい、魚津の木を使ったおしゃれな駅舎。観光客や地元の人、インスタ映えする景色を
写メで世界にSNS発信し、人が人を呼ぶ。

キャッチフレーズ「駅を中心に交流人口を増やす」

委員等

キーワード「多様性」「楽しい」「便利」

この三点を基本的に考え、「多様性」は老若男女、あるいはLGBT、さまざまな人が集
い楽しめるまちを作りたい。教育、健康、飲食、レジャー、趣味、ビジネス、宿泊などの
機能が駅周辺に必要なので、足りないものを今後整理していく必要がある。方向性として
は、みんなが楽しめるまち。ただ、駅周辺ばかりというわけにもいけないので、各地区拠
点との交通ネットワーク等の整備も重要。

副会長

資料最後の地図から円を見てサークルからスクエア、正方形を思い浮かべ、魚津市は200
km²あるので、1km四方で1/200スクエア、広すぎるので、1/4の1/800スクエアの
再構築、1/800スクエアをぶち壊す等、駅を中心に考え、賑わいを作るためには交流、滞
留が大切。人が動く、一日一回駅を訪れるための用事や魅力を考え、通勤通学、買い物、
散歩、行政手続き、教育、運動、会話、会食、外出など9つの理由をまとめて1/800スク
エア周辺に出来ればと考え、

キャッチフレーズ「訪れて、そしてとどまる人の駅づくり」
(「人の駅」は1/800スクエアの言い換え。)

会長

1/800スクエアとは、500m×500mのスクエアで、中心に駅があるというイメージとい
うことは、この資料の円よりもう少し狭いエリア。

委員等

キーワード「再生」「集約」「コンパクト」「交流」

今のまちづくりの主流・着目は、魚津駅、駅舎、海側へ行く道路なので、魚津駅を核に、
市役所などの公共施設や宿泊施設を集約し、子どもから高齢者までが色々なシーンで交流
できる事が理想。市役所を移転し、跡地と既存公園を合わせてグリーン帯となる大きな芝
生広場が広がるまちなか公園。景観も良くなり、宿泊客、通勤通学者、居住者の憩いの場
にもなる。

まちづくりの方向性「楽しめて利便性がある」

夢物語をいくら議論してもまちづくりは出来ないので、5年後や50年後までを見据えた市の考えや方向性も示してもらいたい。

委員等

キーワード「多様性」

若い方、ミドル、高齢者、バリアフリーでは無く、性別年代問わず、ユニバーサルデザインの視点ですべての方に住み良いまちづくり。国際化を視野に入れたまちづくりもひとつのポイント。アンケートから見えてくる小さな不満足の改善を実施しながらまちづくりに活かすような手法も必要。

委員等

キーワード「人口をこれ以上流出させない」

「子育て」「バリアフリー」等もあるが、今後人口は増えないので、流出させないよう、都会に行きたい人が魚津でしかできない暮らし方に魅力を感じるまちづくり。大都市に負けない施設ではなく、身の丈に合った暮らしやすい施設、旅の目的は駅ではなく、アンケートを見ても海の駅や水族館なので、各観光施設への回遊のしやすさ、それから近隣市町へのアクセスのしやすさも重点に。一方で今すぐできることも取り組みながら近隣連携も含めたまちづくりを。

委員等

公共交通の利便性向上と活性化直結しないので、

方向性「歩いて暮らせるまち」

富山県民の車依存度は高く、移動手段のうち徒歩や公共交通の利用割合は5%以内。うち公共交通利用者が4%で、残り1%が徒歩や自転車。歩いて暮らせる、歩いていて楽しいまちづくりが理想。高齢化に伴う免許返納もあるが、人口全体が減少する中では公共交通も経営が成り立たなくなるので、マイカーからの転移を考えた生活スタイルの確立が必要。

キーワード「マイカーからの転移」を魚津市のスタイルに。

委員等

立地適正化計画は市全体の話なので、駅を中心に考えると、交通結節点機能の充実が必要。

キーワード「利便性の向上」「賑わい」

結節点は人が集まる場所なので、賑わいにつながる方策を。パーク&ライドで駅近くの駐車場を利用し、人が集まり楽しく歩くような駅前の状態も良いが、一方で駅横の駐車場計画には議論も必要。駅周辺半径500mの範囲に具体的な施設計画を考えて行く場合、結

節点機能向上と賑わい創出はイコールでは無いが、どちらを取るかでは無く、どの様に考えていくのか、具体的な内容も併せて詰めていくことが大切。

委員等

駅はまちづくりの拠点として、果たす役割の重要性が増し、まちとの一体感、すべての利用者に優しく、わかりやすく、心地よく、ゆとりある、次世代ステーションの創造について国交省のHPでも公表している。まちとの一体感については、金沢駅の意匠、長野駅は善光寺ゆかりの如是姫像など、まちの顔を示す方向性を外観に取り入れている。利用者に優しいというのは、移動円滑化のバリアフリー、体に不自由のある方、全ての人を使いやすい、優しい、清潔といったもの。情報発信、心地よさ、ゆとり、くつろげる空間。旅客鉄道は目的地に行く手段だが、収益性の上から事業の活用策が積極的に考えられ始め、付加価値による利用者増、まちのにぎわい創出に取り組まれている。

委員等

観光者から、地下道は暗くて嫌だという声を良く聞くので、駅前側と道下地区側が気軽に行き来できるようになれば良い。

住民全体がまちづくりに高い意識を持つ所では、花もたくさん植えてあり、感じ良くきれいなまちづくりがされている。市役所が音頭を取ってもなかなか浸透しないのであれば、地域振興の方々の力で、迷っている人に優しく声をかけてあげられるような、おもてなしのレベルアップが必要。景観の良さだけでは無く、優しく親切にされれば、また来ようと思ってもらえる。

子供達の魚津愛も必要。鳥羽神島の子供達は親をすごく尊敬し、漁師の後を継ぎたいという子、人口が少ないのでお店屋さんを開いて、もっと多くの人に来てほしいという子、自分の方向性を持っている。魚津をもっと豊かなまちにするには、子供達の心や意識の面が変わると、魚津はもっと発展する。

委員等

三つの柱「にぎわいづくり」「魚津の顔づくり」「安心・安全のまちづくり」

魚津駅を総合ビルにし、駅東と西を自由に楽しく連絡。150mの地下道は長くはないという意見もあるが、150m何もないところを歩くのはとても長く感じる。総合ビル二階に、大コンコース、あいの風鉄道と富山地方鉄道の改札口が隣接し、プラットホームからはエスカレーターや階段で2階に上がれるので解放されたフロアで、駅西と駅東を明るく行き来でき、周りには様々な施設が入る。大きなフロアでは、シニア世代の体操教室、図書館、高校生も滞在できる憩いの場や軽飲食店、ボランティア、観光案内施設も設け、洞杉や松倉城等の観光案内を映像で流せば観光客も楽しい。物産展、ショッピングもでき、両鉄道へも気軽にアクセスができるので観光客も喜ぶ。

委員等

キーワード「集約」、「コンパクト」、「公共交通」

新たなキーワード 交通のみならず、人、ビジネス、市民活動、情報などあらゆるものが集まる場所として、「人、もの、カネ、情報の結節点」、広い意味などで交通をつけず「結節点」、「結び目」

「結び目」は、駅周辺が集中地区というわけではなく、周辺部とのネットワークの結び目として、周辺あってこそその結び目たる駅周辺、集中地区。地域間競争に勝って継続安定的に活力を維持するためには、特定の地域に集中的に効率・効果的な投資が必要。魚津駅周辺は市の顔として大多数の方が認め、ポテンシャルも高く、市の様々な結び目として、あらゆる資源を集中投資する。周辺部の各地区からは、必要な時に「結び目」へ移動できる手立て、地域公共交通などの移動手段などを併せて整備し、集中化のメリットを市民全体が受けられるようにする。市以外から観光・ビジネスで人や活力を呼び込むことも大事で、広域公共交通の連携も必要。

まちづくりの方向性は、駅や駅周辺を目的に人が集まり賑わいが生まれ、持続可能であることも非常に大事なので、人が人を呼ぶ流れを作るために日常的に幅広い人々が集まる施設、行政が責任を持って管理運営していく施設を一つの核にする。図書館、生涯学習施設等、県内事例も駅周辺の賑わいづくりの参考になり、魚津市の公共施設再編方針もあるが検討いただきたい。

アンケートからも鉄道・バスの乗り継ぎが少ない現状であるが、将来を見越しネットワークの結び目として二次交通のつながりを備えることも大切。駅前にこうした交通利用者だけでなく、さらに賑わいづくりのため、誰でも利用でき待合できる施設を設置、今ほど言った公共施設にその機能も持たせることが効率的。

公共交通と将来普及する小型のモビリティや自動運転のモビリティ等も含めたクルマとバランスをとって移動できる手段を整備すればよい。

委員等

キーワード「公共交通」、「利用者増」、「バリアフリー」、「乗り換え時間短縮」、「利用しやすい」、「交通結節点」、「環境」、「安心・安全」、「快適さ」、「交流」、「観光」

新たなキーワード「持続可能」、「ネットワーク」、「誰もが」、「日常生活」、「利便性」、「北陸新幹線」、「広域交流」

富山県は車保有世帯割合が高く、5割強の方が地域公共交通を全く利用していない。鉄軌道などの多様な地域公共交通インフラを有効活用し、持続可能な地域公共交通ネットワークの確保・充実の推進が必要。「域内交通」では地域ニーズに対応した地域公共サービスの充実、「域間交通」では公共交通機関相互の乗継利便性の向上が必要。さらに、観光振興、交流人口の拡大、まちづくり、産業振興など積極的に展開するためにも、新幹線利用者の利便性向上のため、広域交通ネットワークを充実していく必要がある。

まちづくりの方向性としては、住民の生活を支える身近な公共交通サービスが、将来にわたって安定的に確保され、高齢者、障害者など誰もが安全で快適に移動でき、新幹線駅

等への交通ネットワーク充実により活発な広域交流が行われていることを挙げたい。

キャッチフレーズ「市民の安全で快適な暮らしを支え、広域交流を進めるまちづくり」

地下道が暗い事については、現状、壁には何もないので明るくしようと思えば何か出来るのでは。埋没林、魚津水族館の様子など工夫すれば明るくできるし観光資源としても利用できる。

委員等

キーワード「教育」、「子育て」、「交流」、「まちなか居住」

新たなキーワード「持続可能性」

将来どの様にまちや人の構成が変わっていくのかを見据えてまちづくりの計画をしていく必要がある。居住の観点でゾーニングが出てくるが、どの世代がどこに住んでいるのか、今若い世代は今後高齢者になり、また新しい世代が繰り返すので、変化に対応できるゾーニングを考える必要がある。

持続可能性について、インフラ整備には国の補助金もあるが、維持管理のランニングコストに対しては補助交付金は当てにできない。作るだけで無く運営する事まで含めて一連の経営的な側面も考える必要がある。経営的な考え方について、行政と民間が手を取り合って進めていく事が重要。

会長

同じ方向の議論が多く、特に駅と駅広だけのあり方ではなく、周辺のまちのあり方なども含め、賑わいを生み出す方向、「持続可能な」というキーワードもあり、皆さまの思いの方向は一致している。色々なアプローチがあり、たくさんの人に来てもらい賑わってほしい、まちの顔になる魅力と賑わいが生まれてほしい、商売なども順調にいくよう、公共交通にもたくさんのお客さんが乗るよう、負のスパイラルをポジティブな循環に変えていく方向の議論であったので、駅及び駅周辺をどうするかということは、一つのキーワードになる。今回は、今日の意見をもう一度整理し纏めるということによろしいですか。更に言い足りない方は資料を事務局にお渡し頂くことで宜しいですか。

事務局

今回は、頂いたご意見を整理したものを提示したい。

会長

これからのまちづくりの方向性、キャッチフレーズを考えていくのは良いが、やはり具体策なしにキャッチフレーズだけ決めても、本当に実現できるのか分からないので、両輪で進めていくべき。理念だけが先行し具体策がない計画、具体策ばかり議論して理念がない計画では駄目なので、最初から一つに絞る必要は無いが、少し具体的に絵にしてみる等、皆さまの考え方や思いを実現するために、詳細までは書ききれなくても、グランドビジョン的な内容で、今日も具体的な提案は頂きましたが、今回は示しながら、そのイメージの中で意見をいただく。皆さまの思いはかなり一致している方向にあると思えますが、具体

的イメージは様々という感じがしますので、次に向けての準備を進めていくことについて、何か委員の皆さまからご意見等々あればお伺いしたいと思います。よろしいでしょうか。

委員等

市民の方が買い物できる魅力のある場所に。市民の方に愛されないと、他からきた方にも利用されない。

会長

少し具体的なアイデアが出てくると、よりかたまってくると思います。委員の皆さまの中でご異論がなければ次に向けて準備も進めて行くということではいかがでしょうか。

事務局

今回は、皆さまからいただいた貴重なご意見を、具体策を考えながらゾーニング等、図面的な資料を準備したいと考えます。

次回の開催は、2月末、3月上旬を目途に考えます。

——以上、閉会——